

今月のテーマ 言葉



田上市長の 恋とトコ

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

毎年12月に、その年の世相を表す漢字が京都の清水寺で発表されます。「文字で世相を表現できるのが、漢字ならではの特長だと思います。」

「流行語大賞」というのもあります。毎年流行語を並べてみると、その年の出来事を思い起こさせてくれます。短い言葉で多くのことを想像させるのは、日本人の得意技ですね。

そういった、竹輪やすり身揚げなどの水産物製菓を、もつと県外にも広めようと活動している「長崎かんぼこ王国」が、昨年の「流行語大賞」をもじってオリジナルの流行語大賞をつくりました。

長崎かんぼこ王国 今年の流行語大賞

- ・長崎おでんで、お・も・て・な・し
- ・ちやポリタン食べるなら今でしょ！
- ・かんぼこ食べたら じゃえじゃえ
- ・かんぼこ送って 撥返し
- ・カマノミクス

楽しいですね。思わず笑顔

になります。

言葉といえば、「座右の銘」や「好きな言葉」を聞かれることが時々あります。

好きな言葉はたくさんありますが、そんなときによく挙げるのが「一隅を照らす」という言葉です。

自分の置かれた場所、立場で、力を尽くすこと。それはあなたがいる場所を明るくすることになります。そして、そんなふうにいる場所とその周囲を照らす人が一人、二人と増えていけば、やがて全体が明るくなります。だからこそ、まずそれぞれが持ち場持ち場で頑張つて、自分のいる場所を明るくしましょう。そんな意味の言葉です。

伝教大師の「山家学生式」という書物の中にある言葉だそうですね。私がこの言葉を好きなのは、小さな力が集まって、やがて大きな力になっていくイメージに共感するからです。暮らしやすいは一人ひとりができることを出し合ってみんなでつくる、市民も行政も企業も大層も、みんなが力を合わせて良くしていく、長崎がそんなま

ちでありたいという思いを込めて、私はよくこの言葉を「好きな言葉」に挙げます。

新しい年の始まりに「今年が目標」などを言葉にして宣言したり、机の前に張つたりする人も多いのではないのでしょうか。一年一年をメリハリのあるものにするためにはいい方法だと思います。

以前、年賀状にその年の Motto を書いていた時期がありました。一年たつて年賀状を書くときに、前の年の Motto を見ると、少し前進しているような気がしました。言葉にして心に刻む、というのは意外に効果があるのだなと思いました。それはきつと本当にそうありたいと思つていたからだと思います。

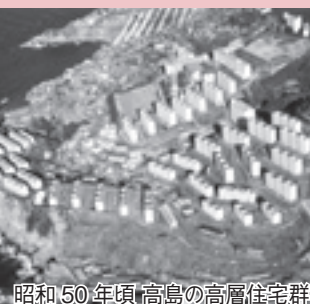
今年も、仕事の目標とは別に、ありたい自分を言葉にしておこうと思います。年末にはそこに少し近づいているように。

■テレビ・ラジオを通じて、田上市長がこれからの長崎市について語ります。放送時間など、詳しくは2ページの「市長出演新春番組紹介」をご覧ください。



明治日本の産業革命遺産
高島の歴史を
訪ねて(後編)

出かけて見る・知るまちのオススメスポット



大人気のシュウガク温泉は、ビーチ内で安心 往時札の高層住宅群跡の標柱 昭和50年頃高島の高層住宅群

100年以上もの間「石炭の島」として発展し、明治日本の産業革命に大きな影響を与えた南国の島、高島。

最も多いときには、70棟もの高層住宅に2000を超す家族が生活し、炭鉱や高層住宅などから、一日中輝かしい光が放たれていた。

しかし、閉山後は、高層住宅も解体され、その場所には住宅名を記した標柱のみが、遠くの海を眺めながらひっそりと建っている。

そして、今、釣りやシュノーケリング、シーカヤックなどのマリンスポーツが楽しめるほか、おいしいピラメや甘い高島トマトを堪能できる島として注目が集まっている。

あなたも気軽に訪れることができる、南国の島、高島で、近代化の歴史を感じながらリフレッシュしてみませんか。